

上流社會に於ける幼稚園の必要

東京府女子師範學校長 林 吾 一 氏 談
 兼東京府第二高等女學校長

近來幼稚園に注意する人漸く多きを加へ來り幼稚園の所々に新設せらるゝものあり従つて保姆の需要益増加せる由誠に賀す可き事と云ふ可し、聞く處に因れば外國に於ては貧兒のためにせる保育場甚だ多き割合には上流の家庭の子弟を集むる我國の幼稚園の如きものは比較的少しと云ふ是に於てか人或は我國の幼稚園を批難し之を以て世の贅物とし代ゆるに貧兒院若くは貧民の爲めにせる托兒場の如きものを盛に設立せんことを主張するものあり、吾人も是等の主張に對しては固より双手を擧げて之を賛するに躊躇せず、然れども之と同時に今日の如き幼稚園を以て不必要なりとするに至りては之を賛する能はず、寧ろ吾人は益進んで

今日の幼稚園を發達せしめ、完全ならしむると共に下層社會の爲めにせる托兒場的幼稚園の新設をも盛ならしめんことを欲するものなり、何故に今日の如き上流社會の爲めにせる幼稚園の存留を必要とするかと云ふには我國の上流社會には家庭に共通の欠點あり、即ち僕婢に對する主従の關係が子女の上にも影響して家の僕婢を以て己が僕婢と心得、己の力にて爲し得らることをも僕婢をして世話せしむるため長く家庭内に育て、上流社會の兒女は漸次我儘者となるを常とす、今日に於て之を防ぐに恰好の方法は其等の兒女を托して幼稚園に來らしむるにあり、幼稚園の保姆は己れの長上として事ふ可きも決して僕婢の如き御機嫌を取り呉るゝものにあらず、従つて兒女も幼稚園にある間は是非なくも我儘なる振舞を爲す能はざる

なり、又今一個の理由と認む可きは社交上の利益なり、凡そ上流社会の家庭には父母祖父母の如き長上あり、僕婢食客三太夫の如き臣下ありと雖も不幸にして同等の交際を爲す可き友を欠く會々兄弟あるものも長幼の秩序嚴然として犯す可からず是に於てか其遊嬉の相手となる可きものは常に僕婢に限らるゝを常とす然るに是等の僕婢たる極めて非教育的にして徒に兒女の氣嫌を損せざらんをのみ努め未だ教育の何たるを解せず況んや同等の權力を以て之に交際することなどは思ひも寄らざるなり、然るに幼稚園にありては同年輩の兒女しも同等の權力を有せる兒女相集まるを以て對當の交際は是に於て始めて實現することを得可く兒女をして傲慢不遜の念を去らしめ、人も物も必ずしも我身一つの爲めにあらざることを悟らしむる

を得是上流社会の兒女に取りては大なる利益と云はざる可からず、近來女學校出身の主婦上流社会に乏しからず皆各々家庭の改善に銳意し上述の如き欠點を防がんとするものなきにあらねど因習の久しき到底充分の改良を望む可からず、之れを我校生徒の家庭に徴するに明白なる事實とす、因つて吾人は上流社会兒女の將來の爲めに學校幼稚園の如き家庭外に於ける教育場の彌が上にも盛ならんことを望まずんばならず、殊に幼稚園保母の如き専門家に我子を托するときは以て家庭内に潜める意外の欠點など容易に發見せられて兒女將來の不幸を未然に防ぎ得るの大利益あるが故に富裕なる生活に身を置ける人々は徒に業務の忙しくして兒女教育の暇なきを憂へず進みて我子を家庭外善良なる教育者に托するの勇ある可きなり。